

## 令和6年度 第2回中央市地域公共交通活性化協議会 議事録

日 時：令和6年9月20日(金) 午後1時30分～

場 所：中央市役所本館 2階 防災対策室1

出席者：11名（欠席者：7名）

赤岡会長 佐々木副会長 橘田委員 池田委員（代理：岡氏）

沼尾委員 窪田委員 鈴木委員（代理：服部氏） 矢野委員（代理：浅川氏）

伊藤委員 加藤委員 浦田委員

（事務局：今福課長・土橋主幹・渡辺副主幹・二階堂主任）

### 会議概要

#### 1 開 会

#### 2 会長挨拶

#### 3 議 題

##### （1）デマンド交通の実証運航方針について

事務局よりデマンド交通導入支援業務の実施業者である「株式会社ケー・シー・エス東京支社」を紹介。

（株）ケー・シー・エスより【資料1】に基づき、説明。

#### ○質 疑

委員A

質：デマンド交通の実証運行をする上で、対象は市民に限定するのか。

答：実証運行をスタートする段階では、市民のみを対象として想定している。

ただし、実証運行におけるアンケート調査の結果や利用者等の数値を分析しながら継続的に検討していく。

## 委員 B

質：乗降ポイントについて、市内の商業施設や医療施設、市外の医療施設への交通接続までを支えるとしているが、市内全域の各施設を広範囲にカバーするというのは持続性の観点からも困難と思われる。現状、自家用車で移動している各施設を全てデマンド交通で網羅するとなると、乗合率が高まらず、結果として個々の移動需要に対しそれぞれ対応することになる恐れがあるため、方針においても多少の制約は必要と感じる。

県のマスタープランにおいても中央市における地区拠点が表示されることから、都市計画との連携に対する視点についても明示してはいかがか。

料金設定について、持続可能性の観点から相応の費用負担を求める考えもあるが、どの程度収支に影響があるのか慎重に検討する必要があると考える。

答：乗降スポットについては、エリアや対象施設を広げることによる乗り合い低下や運行効率の悪化は懸念している。

サービスとのバランスを含め引き続き検討していく。

地域公共交通計画の中で交通の拠点として東花輪駅・小井川駅・山梨附属病院を設定しており、都市計画と整合はしている。

都市計画との連携という視点についても考え方を明記する。

料金設定については利用者数や事業費などを推計し、案を協議会に提示する。

## 委員 C

質：収支率は本格運行や運行継続を検討する際に1つの判断基準なると思うが、今後目標値等の検討及び設定がされるのか。

答：収支率を含めた目標設定は必要と考えており、運行計画とは別に実証運行における目標を検討する予定でいる。

また、目標を広く周知することで「使って守る公共交通」の意識醸成を図り、市民を巻き込んだ実証運行を実施したいと考えている。

委員 D

質：参考事例として甲斐市のことが書いてあるが、甲斐市の乗車率や料金、損益の分岐点などわかれば教えてほしい。

答：手元に資料がないため、次回の協議会で提示する。

委員 F

意：甲斐市が例に出ているが、甲斐市と中央市では地形なども違うので、中央市の実情に合わせた計画を定めてほしい。

答：実証運行においても検証をしながら適正化を図り、中央市に適したデマンドの形を検討していく。

●まとめ

デマンド交通の実証運行方針に対する本日の意見を踏まえ、運行計画、検証のポイントについて内容を精査し、次回協議会において提示させていただく。

(2) その他

事務局より

- ・第2回協議会を令和6年11月末頃に開催予定。

3 閉 会